

令和三年度



三宅村立三宅中学校

学校だより

第 149 号

令和 3 年 9 月 1 日発行

校長 小澤 秋仁

東京都三宅島三宅村伊豆 470

TEL 04994-2-0049

FAX 04994-2-1376

<http://miyake-chu.sakura.ne.jp/>

上 野

校長 小澤 秋仁

「次は上野上野～」

浜松町から、京浜東北線に乗り、いざ奥戸スポーツセンター野球場へ。日暮里で京成電鉄に乗り換える予定である三宅中学校野球部員たちは、この車内放送を聞くと少しずつ表情が引き締まってきました。

会場に入ると、対戦校である地元青戸中学校は地の利を活かし、すでにウォーミングアップを済ませていました。40名を超える青戸中野球部、その上、見たこともないような球場。雰囲気のにまれそうになりながら、アップを完了し、試合へ臨みました。

青戸中の好投手から、フォアボール選び、ヒットを弾き返し、送りバントを決め、奮闘しました。大差で負けたものの、タイムリーヒットで得点を奪取した戦いは、価値ある展開でした。この夏は、女子バレーボール部は7年ぶりに島しょ大会にてセットを取る活躍、男子バレーボール部は都大会出場。吹奏楽部はマリンスコレ中止のために、本校にて工夫をこらしたコンサートを開くなど、熱い夏となりました。

「上野」といえば、オリンピックのソフトボール競技で「上野」選手が夏を熱くしました。2008年北京大会同様に決勝で上野選手がアメリカ打線を抑え、2連覇です。2012、2016大会ではオリンピック種目からソフトボールが外れたため、なかなか話題になりませんでした。この影響もあり、上野選手は北京で「燃え尽きた」と感じていたようでした。「次なる目標」を見出すことができず、「もういつソフトボールやめてもいい」と思っていたそうです。そんなとき、ソフトボールは、東京オリンピックの追加競技として認められ、舞台に「復帰」できることが決まっても、「第一人者」と見られることに嫌気がさし、早く自分を追い越していく選手が現れてくれることを心待ちにし、そのような言動が増えていきました。

ある番組のインタビューで次のように答えています。2019年4月の試合中のアクシデント。ピッチャーライナーが顔面を直撃し、下顎を骨折しました。上野選手は「惰性でソフトボールをやっていた自分の目を覚ますために神様がこんな機会を与えてくれた。」このことが転機となったといいます。過酷なりハビリと練習に耐え、同年9月の日本リーグ復帰初戦で「ノーヒット・ノーラン」を達成し、自チームを日本リーグの優勝へと導きました。

教育目標

「ふるさとの発展に進んで貢献する生徒の育成」

- 1 目標をもって意欲的に学ぶ生徒
- 2 人間性・社会性をはぐくみ、相手の立場に立って行動する生徒
- 3 心身ともに健康で明るい生徒

「継続は力なり」とよく言います。しかし、一流選手ですら気持ちを継続することが難しいことがあるようです。五輪2連覇の立役者・上野選手も北京大会が終わってからの数年間は気持ちや練習量を落とし継続不能の状態でした。この怪我をきっかけに、自分を見つめ直し、そして、オリンピックの舞台に立つことを決心し、気持ちのこもった練習を再開したのです。その結果、金メダルを獲得することができました。目標をたて、何かに取り組んだ際に、中断してしまうことはよくあります。そこであきらめれば、全ては終了し、力となりません。時があいても「もう一度やってみよう」と再開すれば、取り組んでいなかった時間は終了から中断に変化します。勉強にしても、部活にしても、趣味にしても、「もう一度」と取り組んだ時から、継続が始まります。上野選手の姿から、「断続も力なり」ということを学びました。

大会前にライバルであるアメリカ・テキサスの日刊紙『Tyler Morning Telegraph』では、「歴史（北京オリンピックの決勝で日本に負けたこと）を書き換えることはできないが、エピソードを付け加えることはできる」とアメリカチームの覇権奪回に期待を示していました。

生徒のみなさん、夏休み前にたてた目標が、未完であるとしたならば、今一度始めてみましょう。保護者の皆さんはいかかですか？あの時に止まったままのことをこれからの歴史として積み重ねていきませんか。

「断続も力なり」 やり切れなかったという過去を書き換えることはできませんが、これからエピソードを付け加えることはできますね。

私もこのあと、3週間ぶりにランニングへと出かけたいります。

9月の生活目標 自ら進んで行動しよう

9月の保健目標 けがの予防をしよう

バレーボール部女子島しょ大会(7月3日)

男子都大会(7月4日)

【女子】①●1-2 神津中 ②●0-2 八丈合同
③●1-2 小笠原合同 (港区立江南中会場)

三宅中女子は3試合で2セットを取る健闘(セットを取ったのは7年ぶり)を見せてくれました。三宅中学校ではたくさんの保護者や生徒のみなさんがオンラインで応援してくれました。翌日の都大会には八丈合同と小笠原合同が進出しました。



【男子】●0-2 日大豊山中 (調布四中会場)

島しょ部からの出場チームが三宅中のみだったため、都大会本戦に出場しました。第1セット序盤は互角の戦いを展開し、大きな手ごたえをつかんだ試合でした。

野球部都大会(7月21日・奥戸球場)

【1回戦】●1-20 葛飾区立青戸中

1回表のツーアウト満塁のチャンスでは惜しくも得点できなかったものの、2回には3塁にランナーを置いて3年生筑波くんが見事なタイムリーヒットを放ち、記念すべき初得点を挙げました。この試合も、三宅中で保護者のみなさん、バレーボール部のみなさんが熱いオンライン応援をしてくれました。



吹奏楽部公演(7月18日)

3年生の最後のステージとして予定していたマリンスコアが中止になってしまったため、代替の引退公演を三宅中体育館で開催しました。



マリンスコアに向けて練習してきた2曲の他、3年生5名による「あとひとつ」の演奏もあり、感動的な締めくくりとなりました。たくさんの方にご来場いただき、ありがとうございました。

新島中・式根島中とのスポーツ交流(7月31日)

新島中はバレーボール部(女子)が船の欠航で島しょ大会を、野球部が緊急事態宣言発令のため出島が認められず都大会を、やむなく棄権するという不運に見舞われました。そこで昨年度野球での交流の実績のあった三宅中に依頼があり、野球とバレーボールの交流試合が実現しました。



新チームに切り替わった三宅中バレー部はセットを取ることはできなかったものの、1年生の成長と2年生の自覚の高まりが感じられる試合でした。

野球部は昨年大敗した新島・式根合同チームから初回到8点を奪う猛攻で主導権を握り、10対2で見事勝利。三宅中の3年生は勝利で現役生活を締めくくることができました。



当日夕方に村営船「にしき」が錆ヶ浜港を出航する際には、たくさんの三宅中生徒・保護者でお見送りをしました。

令和3年9月 主な予定

1日(水)	始業式 小中合同避難訓練
3日(金)	P T A役員会
4日(土)	三宅高校農業科体験
6日(月)	全校朝礼 安全指導
9日(木)	全校水泳 考查前学習会始
10日(金)	生徒会役員選挙
15日(水)	中間考查(国理英)14:45 下校
16日(木)	中間考查(数社) 都学力調査 救命講習会 専門委員会
17日(金)	心理士巡回 中央委員会
18日(土)	授業日 スピーキングテスト(3年)
22日(水)	⑥カット 14:35 下校
24日(金)	⑥地域清掃
27日(月)	生徒朝礼
28日(火)	縦割り道徳

※スクールカウンセラー来校予定日

8(水)・9(木)・14(火)・28(火)・29(水)

◆学校だよりカラー版はホームページでご覧になれます。村役場や出張所等にも置いてあります。